

「令和7年度MDA事業評価委員会」議事録

○日時・会場 令和8年3月16日（月）14：00-16：00

オンライン開催

大阪大学豊中キャンパス I 棟 101A 鈴木研究室

○出席者：

二宮 清（ダイキン工業株式会社 社友）

米田 悦啓（一般財団法人 阪大微生物病研究会 理事長）

河原 克己（ダイキン工業 株式会社 執行役員）

瀧 寛和（元和歌山大学学長）HRAM 理事

板井光輝（（株式会社日立システムズ ビジネスイノベーション統括本部 AI活用ビジネス推進本部）MMDS 招へい教授

楠本 真二（大阪大学全学教育推進機構 副機構長）

鈴木貴（大阪大学 数理・データ科学教育研究センター副センター長）宮本、石原、和田（事務）

渡邊朋子（近畿経済産業局 地域経済部 次世代産業・情報政策課 総括補佐）

1. MDA（数理・データサイエンス・AI教育強化）事業について

鈴木副センター長から、文部科学省推進事業「大学における数理・データサイエンス・AI教育の全国展開」について説明があり、特定分野会議（自然科学系）の運営を中心として、大阪大学が拠点校として果たしている役割について報告があった。

2. 数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定コースに関する大阪大学の状況について

鈴木副センター長から、数理・データサイエンス・AI教育プログラムの概要と認定申請状況について説明があった。令和7年度リテラシーレベル、応用基礎レベルの実績報告があり、データサイエンス教育に関する出席者との質疑応答を行った。特に新しい試みとしてプログラム修了者にはオープンバッジを発行し、就職活動の際などに活用が見込まれることが報告された。リテラシーレベルについては小学校からのカリキュラムが変わってきていることもあり、修了要件を再検討する可能性について意見交換した。